

危機のりきりをかけた 今秋二期強行着工を許すな

八月二十八日、運輸省、空港公団は来年度予算概算要求として、二期工事の条件整備費
二億円の計上を決定し、いよいよ本格着工へふみ切ろうとしています。
中曽根内閣の危機のりきりをかけた三里塚闘争破壊―二期着工攻撃を粉碎し、侵略と暗
黒への道を阻止しなければなりません。
動労千葉第九回定期大会の圧倒的成功をもって、9・16・10・10三里塚現地集会の大結
集を実現し、勝利の展望を切り拓こうではありませんか。

運輸省・公団が二期 工事関連予算を決定

運輸省、公団は二期工事に関連し、工事用道路
の建設費、「反対派」移転用代替地造成など、
二億円の概算要求を決定するとともに、「凍結」
状態となっている二期工事について、旅客ターミ
ナルからの「なしくずし」的着工を開始する方針
を明らかにしました。

「3.25 五割動員」上まわる 総決起かちとろう

「成田空港」は、反対同盟農民を先頭とした
一九年間にわたる空港反対の実力闘争によって、
いまだ一期工事のみの片肺空港を余儀なくされて
います。しかし今回の運輸省、公団の方針は、三
里塚闘争を破壊し、二期工事強行の決意を改めて
表明するものといえます。

そもそも中曽根内閣は、細田運輸大臣をはじめ
千葉県二区選出の山村・水野をそれぞれ農水・建
設大臣にすえたことを見ても明らかのように、二
期強行実施内閣です。

中曽根は「戦後政治の総決算」をかけ、反動攻
撃の基軸に三里塚二期をすえ、全力をあげている
のです。

従って三里塚二期着工をめぐる闘いは、重大な
階級決戦であり、ここで敗れるならば侵略戦争へ
の暗黒の道を許してしまうことになるのです。

三里塚闘争の爆発により、なんとしても中曽根
内閣を打倒しなければなりません。

三里塚は日本階級闘争の 帰すうがかかった闘い

なぜ三里塚闘争に日本階級闘争の帰すうがかか
っているのでしょうか。

「国家」に反逆し、いかなる弾圧にも屈せず、
一九年間にわたって血み泥の実力闘争を貫き、反
戦・反核・反権力・全国住民闘争の皆として敢然
と存在している三里塚こそ、唯一勝利の展望をも
った闘いです。

見てみなさい。三里塚闘争を否定し、敵対する

動労「本部」革マル、日本共産党が愛国主義、企
業防衛路線に転落し、闘うことはおろか戦闘的労
働者の闘いを圧殺することに存在価値を見い出す
反労働者集団になりさがった現実を。
三里塚闘争は、今日の総評労働運動の崩壊的危
機を食いとめ、戦闘的再生をかちとる質をもった
闘いなのです。

国鉄労働者の総決起で「二期着工」と 「国鉄クビ切り」攻撃を粉碎しよう

中曽根内閣は、今秋成田用水着工二期着工に
むけてむき出しの暴力で襲いかかってくることは
明らかです。

われわれは総力で三里塚現地へ結集し、敵の攻
撃を粉碎しなければなりません。

同時に、国鉄労働者の三里塚への決起をかちと
ることを通して、クビ切り「三本柱」をはじめと
する二〇万人体制合理化、「分割・民営化」攻撃
を打ち破る国鉄労働運動の大爆発を実現すること
です。

いまこそ、81・3ジェット闘争を闘いぬいた、
動労千葉の「三里塚・国鉄」路線を全国鉄労働者
のものとするために総決起しようではありませんか。
第九回定期大会の大成功をもって、9・16を突
破口に10・10三里塚現地へ、3・25五割動員を上
回る一大決起を実現しよう。

当面する主なスケジュール（九月）

- 十二日 10時開始 動労千葉第九回定期大会
十三日 17時終了 （鴨川市・鴨川館）
- 十四日 反弾圧集会（東京・清水谷公園、18時）
- 十五日 全国高令者集会（11時、千駄ヶ谷・東京都体
育館）
- 十六日 二期着工阻止・成田用水粉碎
三里塚現地関東ブロック集会
（芝山町・田・田・天神橋、正午。
動労千葉集合10時、成田運転区、作業衣）
- 二十二日 第6回動労千葉労働学校（13時、動力車
「核戦争の危機と労働者階級」 会館）
- 二十六日 第20回組合費公判（東京地裁・10時15分）